



●みちのく EMS 説明会・セミナー情報

■会場：NPO 法人環境会議所東北

●無料説明会 参加費無料

(毎月第 3 水曜日 10:00~11:30)

7/20、8/19、9/21、10/19、11/16、12/21

システム導入にあたり、何から始めてどうすればいいの
か？構築から認証登録までを分かり易く解説いたします。

●内部監査員養成研修 費用 ¥10,800/1人

(毎月第 3 水曜日 13:00~17:00)

7/20、8/19、9/21、10/19、11/16、12/21

●建設業の環境配慮行動 費用 ¥3,780/1人

(木曜日、15:00~17:00)

8/18、10/20、12/15、2/23

●建設以外業種の環境配慮行動 費用 ¥3,780/1人

(木曜日、15:00~17:00)

7/14、9/15、11/17、1/19、3/23

●事務所の節電 費用 ¥3,780/1人

(金曜日 15:00~17:00) 8/19、11/18、1/20

●工場の節電 費用 ¥3,780/1人

(金曜日 15:00~17:00) 9/16、3/24

●省建設重機等の省燃費運転 費用 ¥3,780/1人

(金曜日 15:00~17:00) 7/15、10/21、12/16、2/24

※有料のセミナーの定員は 12 名(先着順)

※お申込はホームページをご参照ください。

URL: <http://www.kk-tohoku.or.jp/ems/>

●みちのく EMS 審査員・評価員の募集

みちのく EMS の審査員の募集を行っております。

応募資格 (ISO14001 審査員補以上の有資格者、年齢 65 歳まで)

※ただし、環境関連の資格をお持ちの方は、研修などを経て、

審査員となることも可能です (お問合せください)

※詳細はこちらをご覧ください。

http://www.kk-tohoku.or.jp/ems/recruit_shinsain.html

NPO 法人環境会議所東北 理事
協業組合仙台清掃公社 理事長

渡邊 浩一

深く知り、解決策などについて考える事により、自然環境の
維持・再生、省エネルギーや資源循環についての活動の広が
りにつながっております。

私は第 1 回から審査員を務めさせて頂き、出品者である
高校生達の環境活動の記録や論文、作品を拝見してしま
いますが、その真摯な想いや素晴らしい行動には何時も感激し、
彼等が日本の将来を担ってくれることに頼もしさを感じて
おります。早いもので 15 年の月日が流れ、この間には、東
日本大震災もあり、自然環境の再生やエネルギー問題、
資源循環型社会の推進について、現在、社会人として活躍さ
れている「甲子園経験者」が多数いらっしゃるものと考えま
す。つきましては、今年も東北の高校生から沢山の作品の応
募を期待している次第です。

編集 後記

消費税が先送りになった。(選挙のための人気稼ぎか)
国民から税金を搾取するだけでなく、まず出費を抑え
見直すという単純なことが出来ないのが不思議だ。

違法ではないが不適切であったと抜け道を熟知し税金
や他人様の金を私的に使うこと自体、品性が問われ恥ずべきことである。
そもそも自分の懐からは出費せず、他人や会社または組織の金銭
を請求書や領収書を整わせ私的に流用する確信犯は許されること
ではない。例えば悪いが「他人のふんどしで相撲をとる」ことを有能だ
と勘違いしている人間がいる。やはり人間性によるものなのであ
らう。持続可能な社会づくりには寄生虫のようなパラサイトが横行する
ようでは、持続不可能な社会になってしまう。
人間力が乏しいと話題になっている昨今、持続可能な社会づくりには
人間力強化が最重要ではないかと実感する今日この頃である。(k y)

発行・編集 NPO 法人 環境会議所東北

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目 10-6

TEL. 022-218-0761 FAX. 022-375-7797

Email: kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp

ホームページ:

<http://www.kk-tohoku.or.jp> (環境会議所東北)

※Facebook もございますので、ご覧下さい。

環境甲子園に思う

NPO 法人環境会議所東北 (以降 K K - T と
記す) の理事を務めております協業組合仙台清
掃公社の渡邊です。今年も環境甲子園へのエン
トリーが 4 月 20 日から開始されております。

『環境甲子園』とは K K - T が、平成 13 年
から高校生の環境活動を支援する目的で行う取り組みで
す。『環境甲子園』は、環境と共生した社会の実現を目指
し、エネルギー問題(省・創・蓄)やゴミ問題、自然環境保
護などさまざまなテーマで高校生の環境に関する取り組み
を募集するコンテストです。

『環境甲子園』では、高校生の方々に、環境問題に関する
様々なテーマについて研究・調査して発表していただき、そ
れらについて表彰させていただきました。この応募を通し
て、自分達の周りで起こっている様々な環境問題について

●グリーン購入事業所見学会の開催

経済・社会の持続的発展と環境保全の両立を可能にするため
には、事業者や自治体がグリーン購入に率先して取り組んでい
くことが重要です。

その先進事例として、大衡村のみやぎ生協リサイクルセンター
とトヨタ自動車東日本宮城大衡工場の見学会を開催します。

日時：平成 28 年 7 月 12 日(火)

集合・解散：仙台駅前東口観光バスターミナル

主催：みやぎグリーン購入ネットワーク

共催：宮城県

内容：

- ① みやぎ生協リサイクルセンター
エコフィード化(液状飼料化)と S V O コー
ジネーション発電機の稼働状況等
- ② トヨタ自動車東日本株式会社宮城大衡工場
コンパクト車等の効率的な生産ライン等
(昨年度見学会の様子)



2016 年度中の”みちのく EMS”の基準改定にむけて

代表理事 猪股 宏(東北大学大学院工学研究科・教授)

NPO 法人環境会議所東北の平成 28 年総会は、先日 5 月 12 日に開催され、平成 27 年度の活動総括とそれ
を踏まえての 28 年度の計画について議論頂きました。

基本方針は、この 1~2 年間継続して注力している“環境マネジメント認証機構「みちのく EMS」”の円
滑運営とその裾野拡大です。みちのく EMS は ISO14001 の地域版として、10 年の実績をベースに認知度もあ
がり、現在では 220 を超える事業所が認証されていますが、本年度大きな変革をすることになります。親
基準である「ISO14001」が 2015 年に改正され、猶予期間 3 年の間に新改正基準に移行することになってい
ます。みちのく EMS は、ISO14001 に準拠していること、規模の大小の違いのみで思想と基準・行動は同じ
という認識から、同様に改訂しようとしております。

今回の ISO14001 の改訂のポイントの 1 つは、複数のマネジメントシステム規格を同時利用する際の利便性を高めるため ISO
9001、ISO 14001 の両規格に共通の規格構造、要求事項、用語・定義を基礎としていることです。これにより、品質と環境の観点
でのマネジメントを同時に行っている組織は非常に運用がしやすくなります。また、組織の戦略的計画プロセスにおける環境管理
の重要性が増していることから、利害関係者のニーズ及び期待、組織と地方・地域・グローバル規模の環境状態との係わりに焦点
が当てられています。その他、環境側面に対するライフサイクル的思考の導入も求められています。このようにリストアップする
と、追加事項が多くなり、書類も多くなるのか？と思われがちですが、一般に審査認定などの基準の改正は基本的に申請者側+審
査側の負担が少なく、より良く環境マネジメントが推進して成果も上がるためになされるものです。今回の ISO14001 の改正も、
小職の理解では「書類上での目標値の達成のための制度・システムの議論よりは、パフォーマンスの評価によりパフォーマンスが
改善するような PDCA を目指す」こととなります。つまり、実質的な成果・効果を目指した PDCA が要求されているわけで、よりビ
ジネスにも直結したマネジメント・目標の策定をすればよいのです。

みちのく EMS に関しても、上記のような改正の趣旨に鑑みて、かつ地域の企業組織の規模実情に合わせた改訂を目指して作業し
ており、目下 8 合目程度に到達したところでしょうか。出来上がった段階で、可能な限り関係者に通達し、説明会などにより周知
させたいと思いますので、ご理解とご協力をお願い致します。

●第 19 期総会開催

第 19 期平成 28 年度通常総会は、平成 28 年 5 月 12 日(木)に仙台エーラクビル個室
居酒屋歪門を会場に開催いたしました。猪股宏代表理事の挨拶の後、直ちに議事に入り、
第 1 号議案 平成 27 年度事業報告ならびに決算報告、第 2 号議案 平成 28 年度事業計
画案ならびに予算案はすべて承認されました。

記念講演は、一般社団法人産業環境管理協会製品環境部門副部門長兼地域支援ユニ
ット長の壁谷 武久 氏を講師としてお迎えし、「地方創生- 環境・エネルギーを軸とした地
力型社会づくりに向けた地域からの挑戦-」と題して講演をいただきました。

地方創生を考える上での基本認識や本質、問題点などを説明した後、地域資源や地域ブ
ランド、地域産業、地域コミュニティ、地域メリット、自立型地域エネルギーなどを総
合的に考えた地力型産業社会を目指して、地力型エネルギーの創出を考えていくこと
について、実例を踏まえながら説明がありました。

地方創生は、自ら立ち、自ら歩き出すこと。地域の未来は、地域の創造力から生まれる。
地域活性化やビジネスチャンスととらえ、地域資源等を有効に活かした経済循環の実現
に向けて東北地域は大いに期待できる地域であることが分かりました。

続いて懇親会に入り、会員の方々は、会員同士、顧問の先生方と親交を深めているよう
で、大変盛り上がった懇親会となりました。



総会の様子



記念講演の様子

平成 27 年度小型家電リサイクル啓発事業「親子リサイクル体験教室 in 仙台高専」開催報告

平成 27 年度小型リサイクル啓発事業を当会が請負、平成 27 年 8 月 4 日（水）（12 時 30 分～16 時）に、仙台高等専門学校名取キャンパスにおいて、「親子リサイクル体験教室 in 仙台高専」（経済産業省東北経済産業局主催）を開催しました（仙台市内在住の親子 18 組 37 名参加）。

移動のバスの中で、小型家電リサイクル法の用語やリサイクルの必要性等について説明があった後、DVD により、小型リサイクル法の意義を学びました。

体験教室では、電子基板から金を取り出す実験を行いました。電子基板を細かく切断し、金を剥離するため硝酸を使用し、金が溶け出す様子を観察しました。剥離された金はお土産として持ち帰ってもらったため、参加者の皆さん大変喜んでいました。また、仙台市から「小型家電リサイクルの回収方法について」、株式会社青南商事から「リサイクル事業について」、仙台高専から「電子製品に入っている金属の持つ役割について」それぞれ説明がありました。



平成 28 年度小型家電リサイクル啓発事業 「親子リサイクル体験教室 in 仙台高専」 参加者募集

～使わなくなったパソコンから金を取り出そう！～

- 日時：2016 年 8 月 9 日（火）12:30～16:00
- 会場：仙台高等専門学校名取キャンパス
- 集合場所：仙台合同庁舎 B 棟（仙台市青葉区本町 3-3-1）
※バスで送迎します
- 主催：経済産業省東北経済産業局
- 共催：仙台市、仙台高等専門学校
- 協力：ニッコー・ファインメック（株）
- 募集：仙台市及び仙台市周辺の親子（小学校 4～6 年生）
15～20 組
- 参加費：無料
- 参加申込：参加者氏名、学年、住所、TEL・FAX をご記入の上、ハガキまたは FAX でお送りください
※応募者多数の場合は抽選を行います
- 申込期間：7/1～7/25（必着）
- 申込み・問合せ先：NPO 法人環境会議所東北まで

第 16 回環境甲子園募集開始！

環境甲子園は環境と共生した社会の実現を目指し、エネルギー問題やゴミ問題など様々なテーマで高校生の環境に関する取組みを募集するコンテストです。

- 応募資格 ①東北 6 県の高等学校生・高等専門学校生 ②個人・グループ、いずれも可
- 賞および賞金 最優秀賞 1 点 10 万円
優秀賞 2 点 5 万円
特別奨励賞 5 点 3 万円
奨励賞 6 点 1 万円
- エントリー期間 2016 年 4 月 20 日（水）～7 月 20 日（水）
作品（成果品）応募期間 2016 年 6 月 20 日（月）～8 月 31 日（水）※当日消印有効
- 入賞発表 ホームページに公開（10 月上旬頃を予定）
- 表彰式 2016 年 11 月頃を予定

コラム

南三陸町に被災地第一号のメタン発酵施設が誕生

東北大学名誉教授 野池達也



東日本大震災・原発被災地の復興のために、今こそ、未利用の下水汚泥、大部分が焼却処分されている家庭生ごみ、食品廃棄物、直接農地還元されている家畜排せつ物等廃棄物系バイオマスの有効利用による地域エネルギー生産の必要性が強く認識されています。

前会報では、原発被災地の福島県伊達市霊山町下小国地区における放射性物質に汚染された柿や雑草を、現地の方々が手造りのメタン発酵装置により、バイオガス生産の成功に続いて、除染された農地に銘種「青山在来」の大豆栽培を行われ、豆腐製造を目指すまでに起ち上がられたことをご紹介させていただきました。

甚大な津波災害を受けた南三陸町では、アマタ株式会社事業主体となり、遂に震災被災地における第一号メタン発酵施設が完成し、2015 年 10 月には稼働が開始されました。津波で破壊された公共下水道を復旧せずに下水処理場跡地に、住宅や店舗から排出される生ごみや尿・浄化槽汚泥等のバイオマス 10.5/日を収集し、中温でメタン発酵を行います。バイオガスは発電に用いるなど施設内で利用し、液肥は農地に散布されます。幸いにも同町は、国の第 2 回バイオマス産業都市構想に選定され、メタン発酵施設は復興計画の中核として大いに期待されています。

写真は、誕生したばかりの南三陸 B10 施設と、消化液農業利用のための液肥散布車です。液肥タンクには、南三陸町のいのちの循環液肥車と書かれています。

竣工式に出席し、ご自分たちが分別した生ごみや浄化槽汚泥から、バイオガスと液肥を生産できるメタン発酵施設の誕生に、町民の皆様が如何に大きな期待と喜びに溢れておられるかを実感いたしました。



南三陸 B10 施設

会員 企業 紹介

旭興業株式会社

代表取締役 浅野 新一 氏

〒981-4300 宮城県加美郡加美町字蓬田 48 番地
TEL：0229-67-3331（代表） FAX：0229-67-3334
従業員数 80 名 創立/1965 年
資本金/5,000 万円 URL：http://www.asahi-kogyo.jp/

環境との共生を目指して

奥羽山脈の裾野に広がる宮城県加美町。その地の利を生かし、昭和 40 年に砕石採取販売を始めて、半世紀の歳月を刻むことができました。その間、社会基盤の整備という企業使命を掲げて、砕石製造販売から土木工事業、廃棄物処理業と時代の変革とともに諸事業にも前向きに取り組み、実績を重ね信頼をいただいております。

平成 12 年の建設リサイクル法の制定により、分別解体等及び再資源化等を行うことが義務付けられましたが、当時、東北地区では産業廃棄物の処理施設が少なく、不法投棄の事案も発生しておりました。そのような情勢のなか、平成 16 年 9 月、砕石プラント跡地に産業廃棄物中間処理施設「あさひりサイクルパーク」をオープンし、特定建設資材であるコンクリート・木くずのリサイクル事業を開始しました。コンクリート塊のリサイクルでは、創業からの砕石業でのノウハウや販路を活かし、100%のリサイクル率を継続しております。また、木くずのリサイクルにおいては、バイオマス燃料用のチップを中心に、パーティクルボード用の原料チップ、家畜用敷料のオガ粉を製造し、多様にわたり再利用されております。関連会社において、色麻町「かつばのゆ」でバイオマスボイラーによる熱源供給事業も行っており、資源の地産地消にも取り組んでおります。

環境問題に対する自主的な取り組みと、その継続的改善を経営の重要課題の一つとして位置づけ、全ての事業活動を通じて、環境への影響に配慮し、その保全に努めることにより、持続的な発展が可能な社会づくりに貢献することを基本理念に、みちのく EMS を認証取得し、循環型社会の構築に向けて全社員が一丸となって取り組んでおります。

時代の変化のなかで、いま私たちの仕事に求められているのは、自然や生活圏といった「環境との共生」ではないかと思えます。豊かな未来の創造へ向かって、微力ながら社会に貢献する一方で、環境の保全や法規制の理念にも学んだ謙虚な姿勢を大切にしよう誠意努力していかねばならないと決意しております。



あさひりサイクルパーク



バイオマスボイラー（かつばのゆ）

会員 企業 紹介

ユナイテッド計画株式会社

代表取締役 平野 久貴 氏

〒018-1414 秋田県潟上市昭和豊川榎木字槻 13-1
TEL：018-877-3027 FAX 018-877-3986
従業員数/68 名 創立/1965 年 資本金：2 億 6,500 万円
URL：http://www.united-k.jp/

環境負荷の低減を緑（環境）の利益に

私たちユナイテッド計画は、緑豊かな東北の日本海側に位置する秋田県で、人々が経済活動を営む上で欠かすことのできない、産業廃棄物処理の事業を行っています。

昭和 40 年から資材運搬・建設業を営んできた弊社は、昭和 61 年産業廃棄物処理の事業に着手して以来、中間処理施設、管理型最終処分場（平成 18 年には移設型被覆施設管理型最終処分場を増設）、リサイクル事業の許可を取得し、さらに平成 17 年には、日本初となる一般廃棄物焼却炉の PFI 事業（大館市広域市町村圏組合）に参画するなど、多様化する産業と共に変化するニーズに対応するため、率先して新しい技術・事業へ挑戦してまいりました。

平成 23 年には、Sustainable plant（持続可能な工場づくり）をコンセプトとした焼却溶融施設、リサイクル工場秋田を供用しています。本施設は 95t/日の処理能力を持ち、燃焼温度 1,100～1,300℃の高温で運転管理されています。廃棄物は焼却残渣である溶融スラグにすることで大きく減容化され、最終処分場のさらなる延命に貢献することが可能となりました。また、本施設ではサーマルリサイクルを行っており、380kw/h の発電が可能です。これにより、二酸化炭素発生量 4,095 トン/年の抑制、石油代替効果が 1,820kl/年となり、本事業を通して環境負荷低減につながっています。

そして、この焼却と発電のノウハウと実績を活かし、新たな事業として木質バイオマスで発電を行う、ユナイテッドリニューアブルエナジー（株）を設立しました。平成 28 年 7 月から本格稼働される本事業は、最大出力 20,000kw の木質バイオマス発電事業であり、東北地方では最大級となります。本事業では地元の林業者様と連携することで地域の未利用材を安定的に調達できる体制を構築し、電力供給を行います。これまで需要の乏しかった県内の木材を本事業で有効活用することで、地元林業への波及効果等の地域振興も期待されています。また、資本はユナイテッド計画 5 億、フォレストエナジー 4 億、レノバ 4 億、（一社）グリーンファイナンス推進機構（優先株主）7 億の 20 億となっています。融資は地元金融機関を中心に 75 億円、秋田県のふるさと融資 31 億円を受けており、地域に根差したプロジェクト推進体制となっております。解体工事から資源の再生までトータルに関わり、これからの循環型社会に幅広く貢献していくことを目指しています。



リサイクル工場秋田



ユナイテッドリニューアブルエナジー